

論理国語 単元指導計画

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	2年〇組 教室
クラス	2年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	論理的に書く—小論文①
使用教材	『『考える葦』であり続ける』 (小川 和也)	使用教科書	『新編 論理国語』 大修館書店
教材観	本単元では、自分の主張と対立する主張に反論するという展開で小論文を書く練習をする。本教材は、デジタルに頼ることが当たり前となった現代で、「思考する習慣」を失ってしまうことに警鐘を鳴らすものである。デジタルは生徒の身近な存在であり、小論文のテーマとして適している。		
生徒観	活発で、人と話すことが好きな生徒が多い。しかし、多角的に思考をめぐらすことを苦手とし、自分と異なる意見を受け入れられなかったり、自分の意見を感情のままに出してしまったりする様子も見受けられる。そのため、自分とは異なる立場の意見に思考をめぐらせ、論理的に反論できるようになることを目指す。		
指導観	小論文の作成を通して、根拠を明確に示す力や、対立する意見にも論理的に反論する力を身につけさせたい。 また、テーマについてさまざまな観点から考える活動では、生成AIを活用し、生成AIの迅速な情報提供の便利さや危険性にも触れたい。		

1 単元の目標

(1) 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めることができる。

[知識及び技能] (1) ウ

(2) 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] A (1) ウ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

2 単元の言語活動

「校内でデジタル (スマホ) を使用できるようにするべきか・否か」について、さまざまな観点から自分の考えをもち、論理的に小論文を書く。

(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] A (2) エ)

3 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 (1) ウ	① 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。 A (1) イ	① 小論文を書くにあたり、自分とは異なる考えや、反論に耐えうるような意見を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全6時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (3時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○『考える葦』であり続ける」の内容を理解する。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
第2次 (3時間)	○小論文の特徴について理解する。 ○テーマについて主張と根拠をまとめる。 ○ワークシートをもとに小論文を書く。 ○生成 AI の提案を受け、対立する主張と根拠を考える。 ○対立する主張への反論を考える。 ○ワークシートをもとに小論文を書く。 ○ペアで読み合い、相互評価する。 (本時2/3)	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の確認」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価基準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○本文を通読し、語句の意味や読み方を確認する。	・筆者がデジタルに対してどのような立場をとっているか注意しながら指導する。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ・ノートの記載内容を点検する。
2	○一・二段落の内容を理解する。	・筆者が「デジタル」に対して批判的な立場であることを意識させる。 ・文章中から筆者の主張と根拠を見つけ、根拠の役割について意識させる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ・ノートの記載内容を点検する。
3	○三段落の内容を理解する。 ○本文の構成を確認する。	・筆者が「デジタル」に可能性を感じていることを意識させる。 ・主張・根拠・具体例を意識させ、説得力のある構成について考えさせる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ・ノートの記載内容を点検する。
4	○小論文の特徴を理解する。	・ワークシートを配布し、演習を通して小論文の特徴や構成について理解させる。	[知識・技能] ① 「記述の確認」 ・ワークシートの記載内容を確認する。
5 (本時)	○テーマを確認する。 ○テーマについて、メリット・デメリットをワークシートに書き出す。 ○意見を共有する。	・ワークシートを配布し、メリット・デメリットを思いつく限り書かせる。 ・自分にはない意見は、プリントに追記させる。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の確認」

	<p>○ワークシートをもとに150字程度の小論文を作成する。</p> <p>○AIの提案を共有する。</p> <p>○対立する主張について、ワークシートに書き出す。</p>	<p>・小論文は「双括型」で書くように指導する。</p> <p>・プリントを配布する。</p> <p>・自分たちの意見と比べさせる。</p> <p>・インターネットを活用し、データや根拠となり得るものを見つける。</p>	<p>・ワークシートの記載内容を確認する。</p>
6	<p>○前時のワークシートをもとに、小論文の構成を書く。</p> <p>○400字程度の小論文を書く。</p> <p>○ペアで読み合い、相互評価する。</p>	<p>・段落構成や改行について確認する。</p> <p>・誤字や係り受け、主語と述語のねじれ等、初歩的なミスがないように声をかける。</p> <p>・互いの小論文を読み、指摘し合う。</p>	<p>[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① 「記述の確認」 ワークシートの記載内容を確認する。</p>

《本授業における評価の実際》

5 観点別学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「A 書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)アに「50～60 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A 書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能] ①の「文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができている」状況を、「小論文課題における主張・根拠を自ら考え、対立する主張に対して論理的に反論しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、ワークシートや小論文の記述を点検して評価する。ワークシートに記述できていない状況をCと捉え、他者からの意見を踏まえて書くよう教員から助言をする。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現] ①の「立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる」状況を、「自ら考えた意見や生成AIからの提案を文章に取り入れた上で、適切な根拠を添えて反論しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、ワークシートや小論文の記述を確認して評価する。小論文を記述できていない状況をCと捉え、教員から助言をしたり、前時のワークシートなどの参考資料を用いるよう促したりする。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度] ①の「小論文を書くにあたり、自分とは異なる考えや、反論に耐えうるような意見を粘り強く考える中で、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「反論をふまえて字数制限に適

当な文章量で論述しようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況（B））と捉え、ワークシートや小論文の記述を確認して評価する。ワークシートに記述できていない状況をCと捉え、教員から助言をしたり、前時のワークシートなどの参考資料を用いるよう促したりする。

6 学習指導案（5時間目/全6時間）

本時の目標：ア 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫することができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] A (1) ウ

言語活動：生成AIの提案を踏まえて自分の視野を広げ、根拠に基づいて、対立する主張について考えることができる。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 3分	<input type="checkbox"/> 前時までの復習をする。 <input type="checkbox"/> 本時の目標・内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「考える葦であり続ける」について、筆者の主張を確認する。 ・本時に行うことを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的には反論をふまえた小論文を作成すること、本時はそのためのスモールステップであることを意識させる。
展開① 22分	<input type="checkbox"/> 小論文のテーマを確認する。 <input type="checkbox"/> テーマについてのメリット・デメリットを書き出す。 <input type="checkbox"/> ペアで共有する。 <input type="checkbox"/> 数名指名し、全体で意見を共有する。 <input type="checkbox"/> テーマに対する主張と根拠を考える。 <input type="checkbox"/> 150字程度で「双括型」の小論文を作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「①の1」を配布する。 ・自分に無かった意見を追記する。 ・記入したメリット・デメリットを参考にする。 ・段落構成や改行について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いつく限り、書き出すよう促す。 ・他人の意見は線を引いたり色を変えたりさせ、自分の意見ではないことを可視化させる。 ・ただの意見文ではなく、根拠をしっかりとつよう声をかける。 ・誤字や係り受け、主語と述語のねじれ等、初歩的なミスがないように声をかける。
展開② 20分	<input type="checkbox"/> AIの提案を共有する。 <input type="checkbox"/> 対立する主張について	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「①の2」を配布する。 ・AIの意見の中で、自分たちでは思い浮かばなかった意見に線を引き、自分がどれだけ多角的に考えることができていたか振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AIは、迅速に多角的な意見を挙げてくれる便利さがあるが、それに頼りきると、「考える葦であり続ける」の作者が危惧していたように、考える力を失ってしまう可能性もあることを確認する。

	<p>て、ワークシートに書き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分やAIが挙げたメリット・デメリットを参考に、対立する主張の根拠を考える。 ・対立する主張・根拠に対する反論を考える。 	<p>【本時の目標Aに対する評価規準と評価方法】</p> <p>規準：批判的に読まれることを想定して、多面的・多角的な視点から自分の考えを見直すことができる。</p> <p>方法：「記述の点検」(ワークシート)</p> <p>[状況Cに対する手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までのワークシートなどを見直すように助言する。 ・タブレットを活用し、データや根拠を探すことを促す。 ・具体的に書くよう促す。
<p>まとめ 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 本時の振り返りをする。 <input type="checkbox"/> 次回の授業を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自己評価を記入する。 ・次回は、本時のワークシートをもとに、400字程度の小論文を記述することを確認する。 	